

自由の鐘

自由の鐘によるこそいらっしゃいました。この鐘の歴史は変換と進化を物語り、鐘がどのように有名になったかを教えてくれます。

はじめはペンシルバニア州議会が、現在インデペンデンス・ホールと呼ばれる州議事堂用に注文し、1753年に塔の上に高々と取り付けられました。この鐘は議会を招集したり、選挙の日には投票を呼びかけたり、時には楽しいまたは暗い市民の行事を、他の市の鐘と共に大きな音を鳴らし人々に知らせました。

変換は1824年からはじまりました。インデペンデンス・ホールの尖塔にあったこの鐘は次第にアメリカ革命の偉大な事象のシンボルになりました。1776年7月4日のアメリカ独立宣言の際に鳴らしたと言い伝えられる有名な話は、証拠がないにもかかわらず、何度も語りつがれてきました。鐘の表面の聖書の文句には予言的な意味があり「地上全体と住む者すべてに自由を宣言せよ。」と「自由宣言」をしています。

これらの文字は最初に奴隸廃止運動家の目に止りました。古く尊い鐘が宣言する通り、アメリカに住む者すべてに自由の権利があります。奴隸制度廃止論者のパンフレットには同じ鐘の絵が描かれており、運動家の詩人は鐘や書かれている文字を盛り込んで、詩を作りました。

ここまででは、現在よく知られているひび割れが、鐘を有名にするのに何の役割も果たしていませんでした。ひび割れを全く重要視していなかったため、発生時期の記録もあ

りません。ひび割れがどのように発生したか、誰のせいなのかということを題材にした伝説があふれましたが、決して真実はわからないでしょう。唯一確信があるのは、1846年にジョージ・ワシントンの誕生日のお祝い用に、当時のひび割れを修理したという事実です。その日、修理したひび割れの長さが広がったため、鳴らすのを中止しました。それ以来鐘は鳴らされていません。

1876年までには、鐘がフィラデルフィア市を訪れる観光客の真の名物になりました。インデペンデンス・ホールに飾られた鐘の文字やひび割れは、フィラデルフィアの歴史神社に百年の巡礼に訪れる何千人の人の目にとまるようになりました。

1885年にはニューオーリンズ市の依頼に応えて、自由のみならず国家統一の使節として旅をしました。鉄道列車の専用車の平らな台に乗せられ、ニューオーリンズ、シカゴ、アトランタ、チャールストン、ボストン、セントルイス、サンフランシスコを訪問ましたが、新たにひび割れが発生し1915年に旅を終しました。

20世紀には徐々に国際的な訪問者が増えました。現在この鐘のレプリカが全米50州の各州のみならずいくつかの外国の国々にも存在し、再びこの鐘の影響力が広がっています。歴史の最後の章は未知のまま、鐘はゆっくりと変換を続けました。

自由の鐘パビリオン閉鎖時に流した故ジャック・ジョーンズ氏のナレーション。ペンシルバニア州フィラデルフィア市インデペンデンス国立歴史公園